

2020年度 第2回(第33回)ランチオンセミナー

パフォーマンス課題の評価と フィードバック

教育推進部
多田 泰紘

本日の内容

① ミニレクチャー

- レポートやプレゼンなどパフォーマンス課題とその評価方法
- ルーブリックを使った評価

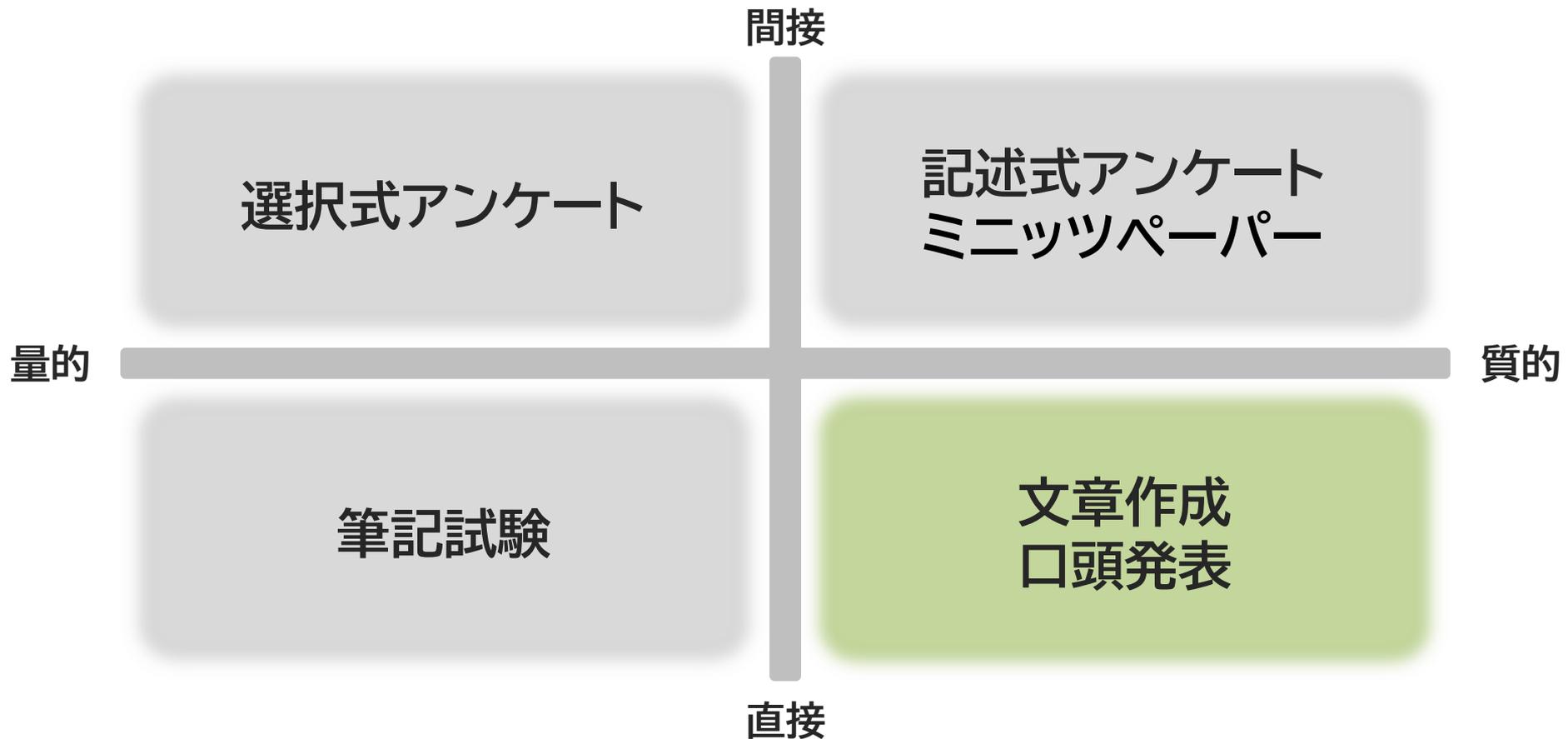
② 質疑応答

- 事前質問への回答
- フリーの質問への回答

質問のある方は、「参加者」ウィンドウの「手を挙げる」ボタンでお知らせください



パフォーマンス課題について



パフォーマンス評価による学習の質の評価(松下 2012)を改変

パフォーマンス課題について

- レポート、プレゼンなど
- 学習内容を質的・直接的に評価する
- 遠隔授業で比較的实施しやすい
 - LMS等でのレポート提出
 - ビデオ通話による口頭発表
録画・録音したものを提出させることも可能



パフォーマンス課題の課題

- 到達目標を把握しにくい
 - 教科書がない
 - 合格点が不明] 目標がイメージできない
- 公平な評価が難しい
 - 学生の個性が反映される
 - 評価者の主観が影響する

➔ 到達目標と評価方法を明示する

ルーブリックについて

ルーブリックの使い方ガイド

<http://www.kansai-u.ac.jp/ap/activity/publish.html#rubricguide>

ルーブリックの作り方

観点: 評価対象となる項目

観点	説明	4+	4	3	2	1
A 主張・論点 の提示	主張や論点を明確にテーマに沿う形で提示しており、伝えたい内容の要点をまとめているか。		主張や論点を明確にテーマに沿う形で十分に提示しており、伝えたい内容の要点を過不足なくまとめている。	主張や論点を明確にテーマに沿う形で提示しており、伝えたい内容の要点をまとめている。	主張や論点とテーマとの関連が認められるが、明確でない形で提示している。	テーマに沿わない形で主張や論点を提示している。
B 視覚情報・ 資料の扱い	視覚的な情報(図表、イラスト等)や資料(配布物等)を効果的に使用しており、伝えたい内容をわかりやすく提示しているか。		視覚的な情報や資料を効果的に扱っており、伝えたい内容を明確にわかりやすく提示している。	視覚的な情報や資料を効果的に扱っており、伝えたい内容をわかりやすく提示している。	視覚的な情報や資料を一部必要に応じて扱っている。	視覚的な情報や資料を効果的でない形で扱っている。
C プレゼン テーション 全体の構成	プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で話しているか。		プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で明確に話している。	プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で話している。	プレゼンテーション全体を通して、一部筋道の立った順序で話している。	筋道の立っていない順序で話している。
D 発表の態度	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、自信をもって伝えているか。		話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、聴衆の反応を見ながら自信をもって伝えている。	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、自信をもって伝えている。	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容をある程度説得的にしている。	プレゼンテーションの内容が伝わりづらい発表態度で話している。

- 能力(思考・態度 含む)
- 課題にかかわるもの



到達目標を明示する

ルーブリックの作り方

基準：パフォーマンスのレベル

観点	説明	4+	4	3	2	1
A 主張・論点 の提示	主張や論点を明確にテーマに沿う形で提示しており、伝えたい内容の要点をまとめているか。		主張や論点を明確にテーマに沿う形で十分に提示しており、伝えたい内容の要点を過不足なくまとめている。	主張や論点を明確にテーマに沿う形で提示しており、伝えたい内容の要点をまとめている。	主張や論点とテーマとの関連が認められるが、明確でない形で提示している。	テーマに沿わない形で主張や論点を提示している。
B 視覚情報・ 資料の扱い	視覚的な情報（図表、イラスト等）や資料（配布物等）を効果的に使用しており、伝えたい内容をわかりやすく提示しているか。		視覚的な情報や資料を効果的に扱っており、伝えたい内容を明確にわかりやすく提示している。	視覚的な情報や資料を効果的に扱っており、伝えたい内容をわかりやすく提示している。	視覚的な情報や資料を一部必要に応じて扱っている。	視覚的な情報や資料を効果的でない形で扱っている。
C プレゼン テーション 全体の構成	プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で話しているか。		プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で明確に話している。	プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で話している。	プレゼンテーション全体を通して、一部筋道の立った順序で話している。	筋道の立っていない順序で話している。
D 発表の態度	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、自信をもって伝えているか。		話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、聴衆の反応を見ながら自信をもって伝えている。	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、自信をもって伝えている。	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容をある程度説得的にしている。	プレゼンテーションの内容が伝わりづらい発表態度で話している。

- 具体例や数値を記述
- レベルを判断可能に
- 主語は学習者「〇〇している」



評価方法を明示する

利点と効果的な使い方

- 学生が到達目標を把握できる
 - 評価前から提示する
- 評価に公平性をもたせることができる
 - 評価方法を学生と共有する
 - 観点の一部を学生ごとに変える
 - *事前に受講生全員に伝え、疑義があれば答える
- 自己評価や振り返りに活用できる
 - 学生にルーブリックの使用を促す

注意点と対応方法

万能ツールではない

- ✓ 授業の到達目標数 > 各課題の到達目標数
- ✓ 学習成果を量で評価することは苦手
- ✓ 相対評価は難しい

➡ 課題に合わせて
複数の評価法、ルーブリックを使う

注意点と対応方法

学びを「型」にはめる可能性

- ✓ 学生は教員の望む姿を演じる
- ✓ 学生の個性を消してしまうリスクがある



基本の型や知識、技術を修得させる
アカデミックスキルの指導に有効

★ 学生と作るルーブリック

- 学生の誤解や理解不足を回避できる
 - 学生の自律、自覚を高める
 - 教員の仕事を一部軽減できる
- ➡ 学生の介入度合を調整可能
- 教員が作ったものを学生に一部修正させる
 - 一部の評価観点の基準を学生に作らせる
 - すべての評価観点・基準を学生に作らせる

参考

文献・ウェブサイト

スティーブンス&レビ(著), 佐藤浩章(監訳) (2014)「大学教員のためのルーブリック入門」, 玉川大学出版

AAC&U "VALUE Rubric Development Project"
<https://www.aacu.org/value/rubrics>

教育開発支援センター作成の資料

1) ルーブリックの使い方ガイド(教員用・学生用)

<http://www.kansai-u.ac.jp/ap/activity/publish.html#rubricguide>

2) アクティブ・ラーニング読本シリーズ3 ルーブリックを手に、学びの航海図を描こう！

<http://www.kansai-u.ac.jp/ap/activity/publish.html#alreader>



ルーブリックの
使い方ガイド



アクティブ・ラーニング読本
*問い合わせフォームより受け
取りをご依頼ください